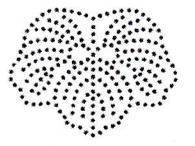


「リゅうま伝」は高野の分身がお客様のところへご挨拶に伺う。という気持ちでお届けしています。



# リゅうま伝

65号

2025年4月26日  
高野 竜馬

「サクラ咲く」

今月8日、仕事を午前中だけ休んで娘の高校入学式に参加してきた高野です。

私の希望どおり、公立高校に受かってくれた親孝行な娘です。今年はずいぶん寒の戻りもあり、桜も満開に近い状態。最高の門出を祝ってくださりました。

今回の受験はハラハラドキドキの展開だっただけに、喜びもひとしおでした。(たぶん合格ラインギリギリだったのではなにか?と悩んでいます。)

というのも昨年の秋から冬にかけて成績がさほど伸びる訳でもなく、さあ、ここからという12月上旬にマイコプラスマ肺炎に罹る始末。それが年明けまで続いたので、

体力的にも苦しかったことでした。また時を同じくして、塾で一番親身に指導してくれていたM先生(九大の女学生)が退職。何かとトラブル続きだったのです。

ところが私立受験も近づいてきた1月下旬、退職したM先生が無償で授業をさせて欲しいと申し出てくれたのです。(ウチの娘とその友達の2人に教えたこと...)

私はM先生の退職事由を家内づてに聞いて唖然としました。塾長(経営者)の雇用条件に塾の先生たちはみな不平不満だったといつので、それを声にしたM先生は塾長からならまれ、塾に居づらくなつたのだとか...。しかしながら自分が指導して

た子ども達を残して、塾を辞めたことが氣になつていたということです。

自分の娘に良くしてくれたいという有難さ以上に、今どきの大学生がアルバイトとはいえず、責任感から無償授業の申し出をしてくれたことに何とも言えない感動を覚えました。

大げさかも知れないけど、この国の若者も捨てたもんじゃありません。なんでも感じたのです。しかもM先生は友人も誘って科目を分担し、九州大学の学食に娘達を呼んで、3月の公立の受験日まで教回に渡って無償授業をしてくれたのです。

その甲斐あって、娘もそして娘の友達も同じ公立高校に合格したのです。娘達の合格をラインで報告すると、M先生達からも歓喜のラインが、

我が娘ながら持つ、なるなと感した次第です。そして

頑張つて合格した喜びだけでなく、今回の塾騒動を憶えていて欲しいなと思つたのでした。

自分の力だけではなかつたことを。自分達を支えてくれた人がいたことを忘れないで欲しいのです。

そして将来、M先生と同じ立場になった時、同じような行動がとれる人間になつて欲しいなと思つた出来事でした。



たかの財形事務所

〒819-0374 福岡市西区千里 707-13

☎090-3407-2123

<https://www.takanozaikei.com> x-11 fp.takano@gmail.com